

氏名	林 洋 光
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 866 号
学位授与の日付	昭和52年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	急性リンパ性白血病児末梢白血球の Streptolysin -O に対する反応性
論文審査委員	教授 木村 郁 郎 教授 大藤 眞 教授 妹尾 左知丸

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

急性リンパ性白血病 (ALL) 児の免疫状態を検索する一方法として、末梢白血球の streptolysin -O, phytohemagglutinine に対する反応性 (SLO 反応値, PHA 反応値) および血清 Ig 値を測定した。

その結果, ALL 児の臨床経過に伴い, SLO 反応値および PHA 反応値は治療前および再発前に高値を示し, 導入期および寛解早期に低値を示した。この中, PHA 反応値に比べて SLO 反応値は臨床経過に伴ってより早期に大きな変動を示した。また, SLO 反応値が化学療法後に低下した症例は予後がよく, 寛解維持期に SLO 反応値が低値に持続した症例は寛解期間が長期であった。Ig 値は臨床経過に伴った変動はみられなかったが, 寛解早期および死亡前には低値を示した。

SLO 反応値変動によって再発時期を予知することは困難であったが, 再発前 1 カ月間では, 寛解維持期と比較して SLO 反応値は高値を示した。

これ等の結果をもとに, SLO 反応値が再発時に上昇する要因について考按を加え, ALL 児治療上, SLO 反応値測定の有用性を強調した。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は急性リンパ性白血病児末梢白血球の Streptolysin-O に対する反応性に関する研究であるが, 従来十分に理解されていなかった急性リンパ性白血病末梢白血球の反応性が, その特に再発に関する指標として重要であることがわかり, 価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。